

③ 教育問題 4英会話

中学校での英会話教育の成果は確かなもののでしょうか。昔のように、正規の英語の授業にAETやALT(ネイティブの先生達)が参加していく授業や、授業数を増やすことの方が効果があると思いますが、いかがですか。また現在の市の財政を考えた上でも、そうすべきだと思いますが、いかがですか。

*資料によると過去4年間で、半年・1年以内で退職した小学校英会話講師は26名の内、7名。中学校の英語加配教員では15名中7名。AET・ALTでは18名中9名となっています。このことは特に中学校での英会話に限界にきていると見ることができます。労働条件が悪ければ、いい先生は集まりません。当たり前のことですが、先生がしょっちゅう変わってしまう学校では、生徒達は安心して英会話などできないのです。加配の先生やネイティブの先生が生徒指導をしないと授業にならない。そんな「英会話」は新座の子達に必要ありません。正規の英語の先生がネイティブとは授業ができないのでは先生達の会話能力も伸びません。このシステムを変えていかないと「お金を溝」になってしまいます。教育委員会のメンツを考えている場合ではないのです。英会話教育特区を止めれば、年間4300万円節約できます。(AETを配置したままで)

一方、授業数を増やすことにお金はかかりません。授業を50分から45分、40分へと移行すれば簡単にコマ数は増えます。

前から主張しているように、中学校は45分か40分。小学校は40分授業を本気で考える時期です。そして運動部の大会を土日、休日にする。それだけで時間数は大幅に増えるのです。

たかむら ともや の連絡先

〒352-0033 新座市石神 3-19-32-106

自宅 042-456-8869

携帯 090-6497-5737

一生懸命

言葉の力と人相

「良い子は「良い栄養と良い言葉で育つ」といいます。内藤VS亀田の試合でよかったことは内藤選手の「言葉の力」を認識したことでした。いじめられっ子で、泣き虫だった彼が20歳でボクシングを始め、30歳を過ぎてから世界チャンピオンになる。チャンピオンになってからも奥さんはパートを続け、小さなアパートから越す気もない…。そんな「庶民」の代表のような内藤選手の言葉は飾り気がなく、回転は遅いが、正直で力がありました。大人は毎日、自分の言葉にもっと気をつかわなければいけないのかも知れません。そして自分の人相にも、子ども達と沢山接しているお母さんや先生達には特に、笑顔と憂い言葉が似合うんですね。



保谷 朝霞線の視察。五中で

たかやんのプロフィール

1954年、東京都新宿区生まれ。都立石神井高校を経て北海道大学へ。大学3年の時、朝日新聞の「今学校で!」を読み、教師になることを決意する。1977年新座五中に赴任。五中で10年、六中で10年、二中で1年、計21年間を子ども達と一緒に生き、授業に、クラスに、そしてテニスに燃える。2000年2月、市議会議員選挙に立候補。9768円で戦い次点となる。2004年2月の選挙でも、お金をかけずに戦い1272票で初当選。小中学生と共に歩みながら「教育問題」「財政問題」を中心に発言を続けている。石神3丁目在住。